

# 子供たちに伝えたい日本の良さ

## ～ 今月のテーマ 牡蠣がつなぐ日本とフランスとの絆 ～

**私** たちが暮らす東京には、毎日、新鮮な魚介類等が日本・世界の各地から届けられ、私たちの生活を豊かにしてくれています。

皆さんは、「フランスの牡蠣の絶滅を、宮城県の牡蠣が救った」と聞くと、どのように思うでしょうか。フランスで牡蠣は国民食と言われるほど身近で重要な食材であり、生でも牡蠣を食すなど、牡蠣は日本同様に多くの人に愛されている、大人気の食材の一つです。

### 壊滅的な被害 –日本からフランスへ–

1960年代、フランスを中心として、大西洋沿岸及び地中海の在来種であるフランスガキ、ポルトガルガキの突然死が大量に発生しました。このため、東北大学と宮城県の指導を受け、松島湾浦戸種牡蠣漁業協同組合が昭和41年(1966)に、前年夏に採苗する種ガキ<sup>カン</sup>20函(※1函…種苗数15,000個)を空輸しました。これが、日本からヨーロッパ向け牡蠣の輸出の契機になりました。



【水中で育つ牡蠣】

昭和42年(1967)には、80函が輸送され、各地での養殖試験の結果、宮城のマガキ種は突然死の数が少なく、成長が極めて良好だったので、フランスの牡蠣業界に大きな反響を呼びました。今日のフランスでは、宮城県から送られたマガキ種の子孫が、市場に流通している牡蠣の約9割となっています。

フランスの牡蠣業界の関係者は、宮城県から牡蠣を輸入した出来事をよく知っており、「日本が助けてくれなかったら、今のフランスの牡蠣はない。」と言う人もいます。

フランスでは、その後も牡蠣が病気になることがありましたが、その度に日本から宮城県のマガキ種を提供するという関係が継続され、交流を深めていきました。

### 大震災における支援 –フランスから日本へ–

平成23年(2011)3月、東日本大震災が発生しました。地震と津波の影響で、牡蠣の一大養殖地である宮城県にも大きな被害が出ました。津波によって多くの船が流され、牡蠣の養殖施設である牡蠣床なども壊滅的な状況となってしまいました。

この年の牡蠣の収穫は、例年の1割程度しか見込めず、牡蠣の取引価格の高騰が予想されるなど、牡蠣生産者にとって復興の道筋が見通せない状況の中、意外なところから資金援助の申出がありました。



【震災後の牡蠣の養殖現場】  
(宮城県気仙沼市唐桑地区)

それは、バッグや靴などの生産で世界的に有名なフランスのメーカーからでした。このメーカーは、45年前に宮城県の牡蠣がフランスの牡蠣を救ってくれたことの恩返しとして資金援助を申し出たのでした。フランスからは、この会社のほかにも、「日本のカキを救う」プロジェクトや「フランスお返しプロジェクト」などが行われ、フランス財団から三陸牡蠣復興支援として、約20万ユーロ(2200万円)の支援を受けました。支援金は、牡蠣生産者が養殖に必要な道具などとして活用されました。



【来日中のフランス財団との交流の様子】

現在、フランスと日本の海では、国境を越え、日本とフランスの人々の熱い思いや願いが詰まった牡蠣が育てられています。

かつて、日本がフランスの牡蠣が絶滅しそうになった際に支援したことによって、今度はフランスが日本の牡蠣を救ってくれました。このことは日本とフランスの絆の強さを表しています。

## 宮城県の養殖技術

牡蠣は7月から8月頃に卵を産み、浮遊幼生の時期を経て、岸壁や岩礁等、様々な所へ付着します。この性質を利用して、牡蠣の浮遊幼生が集まりやすい場所へホタテガイの貝殻を連ねた採苗器を垂らし、これに牡蠣を付着させ、1年から2年かけて養殖します。宮城県では、養殖方法が新たに開発・改良されるたびに、牡蠣の生産量が増大しました。今では内湾の水深の浅い場所では「簡易垂下式」、風や波の強い湾口や外洋に面した場所では「延縄垂下式」、内湾でも水深が深い場所では「筏垂下式」と海域の特性に応じた養殖方法が使われています。

また、牡蠣を海から揚げてそのまま生で食べられるほど宮城県の海はきれいに保たれています。宮城県の牡蠣生産者は、人との絆、海を大切にし、美味しい牡蠣を育てるために、今も一生懸命頑張っています。



【延縄垂下式（気仙沼）】

## 特色ある取組

### 「合同防災キャンプ2017」

～宮城県沿岸部の市町村での復興支援ボランティア～



【海岸清掃の様子】



【漁業道具作成支援の様子】

東京都では、都立高等学校及び都立中等教育学校の生徒と教員が、東日本大震災の被災地を訪問し、復興支援ボランティア、交流活動及び特定非営利活動法人日本防災士機構が認証する「防災士」の資格を取得することを通して、防災リーダーを育成する取組を行っています。平成29年8月に、生徒と教員が宮城県を訪問し、海岸清掃や牡蠣養殖原盤作り等の復興支援ボランティアに取り組み、復興の現状について考える機会になりました。

## 伝統・文化に関するイベント等

★ 都立中央図書館

### ○ 「新年を迎える Greet the New Year」

日本のお正月には今も伝統的な習慣が根付いています。大晦日に長寿を願いながらそばを食べ、お正月には寺院や神社に参拝して、自分や周囲の健康、幸福などを祈ります。今回は正月行事や食べものを紹介した本など、お正月に関する英語資料を展示しています。海外から遊びに来た知人へ日本を紹介する時にも、是非御活用ください。



【期間】平成30年1月10日（水）まで  
【場所】都立中央図書館1階 Books on Japan（日本に関する洋書コーナー）

### 「牡蠣産業をめぐる宮城県とフランスの間で相互に援助がなされたこと」に関する資料紹介

- 本テーマに関する調べ学習におすすめの本
- 牡蠣とトランク 畠山 重篤 / 著 ワック 2015.6  
都立中央図書館請求記号666.7/ 5118/ 2015資料ID 7105976310  
大震災により壊滅的な被害を受けた宮城県牡蠣養殖業に、フランスから支援の申出があった。約50年前、フランスの牡蠣全滅の危機を救ったのは、宮城県から送った牡蠣の種苗。「牡蠣の恩返し」ともいえる相互の支援を牡蠣漁師の著者が語る。
  - フランスを救った日本の牡蠣 山本 紀久雄 / 著 マルト水産 2003.9  
都立中央図書館請求記号 666.7/ 5015/ 2003 資料ID 5008110240  
フランスの代表的な養殖地や食文化の解説とともに、1960年代の終わりから1970年代にかけてフランスの牡蠣は全滅の危機に見舞われ、日本からのマガキの輸入によって救われたことを紹介している。

※ 請求記号や資料コードをお伝えいただくと、本を簡単に探すことができます。

★ 生活文化局

### ○ 江戸系あやつり人形×落語「人情断 文七元結」

古典落語「文七元結（ぶんしちもつとい）」を約380年の歴史ある江戸系あやつり人形（東京都無形文化財）で上演します。江戸っ子の気質や江戸下町の生活風俗が色濃く残る年末を体感いただけます。

【場所】KFCホール（国際ファッションセンター両国）  
住所：墨田区横網一丁目6番1号  
【期間】平成29年12月20日（水）開演午後7時  
【料金】全席指定 一般2800円、学生1200円  
【予約】<https://www.artscouncil-tokyo.jp/ja/events/19142/>

【テーマにおける引用・参考文献資料、写真提供】  
・宮城県水産技術総合センター気仙沼水産試験場  
・宮城県農林水産部水産業基盤整備課養殖振興班  
・特定非営利活動法人 ポジティブプラネットジャパン <http://planetfinance.or.jp>

※ 本資料に対する御意見・御感想、本資料の活用実践等がありましたら、右記担当へ御連絡ください。今後の資料作成の参考とさせていただきます。

【担当】東京都教育庁指導部指導企画課  
電話 03-5320-6869  
ファクシミリ 03-5388-1733